

次郎長

次郎長翁を知る会
会報 第2号
平成5年6月12日発行

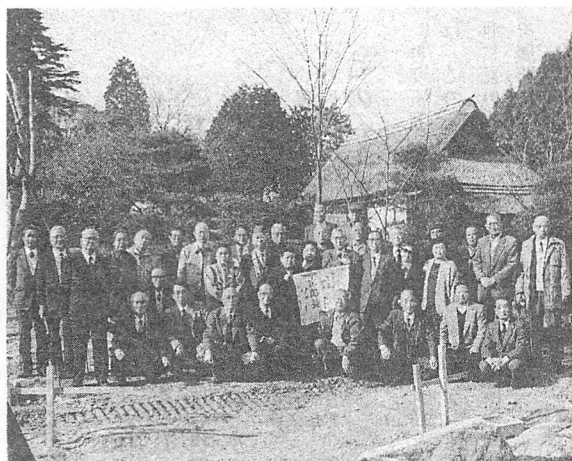
発行所
〒424 清水市旭町6-8
清水市観光協会内
TEL (0543) 54-2420

発行人 宏 竹内
題字 英 田口
編集人 英 田口

いわき市へー次郎長ツアー第一号

●天田五郎と山本長五郎を結ぶ

福島県いわき市。ここは清水とは切っても切れない縁がある。それは、愚庵天田五郎の生まれた土地だからである。天田五郎はいまでもない。



あの東海遊俠伝を書き、講談や浪花節の次郎長もののルーツを作った人である。

史蹟探訪次郎長ツアーの第一号は、いわき行と決まり、平成四年十二月四日、五日の一泊二日、バス旅行となった。総勢、ドライバー、ガイド含めて三十二名。うち三名は東京から参加である。

日程の概略は、十二月四日午前八時半、清水出発。午後三時いわき市着。市役所に市長を表敬訪問し、記念品交換。石炭館見学。湯本温泉すみれ荘ホテル泊。夜、同ホテルにて地元愚庵会と懇親パーティ。五日、市内松ヶ岡公園にある愚庵のいほり天田家菩提所、端光寺、小名浜港等の訪問。昼いわき市発、夜清水着。

いわき市の地元には、愚庵研究会がある。この会のメンバーの方がたが、清水からの一行を大歓迎して下さった。なかでも、世話役の中心となった柳沢一郎愚庵会副会長は、終始一行の案内役となり、石炭化石館では、地質学の専門学者だけあって閉館ぎりぎりまで熱弁をふるい、一行に大き

な感銘を与えた。

懇親パーティでは、特記すべきことが二つある。一つは、東京在住の天田春彦さんが参加し、服部事務局長と握手を交わし、次郎長、愚庵双方のご子孫が対面したことである。

もう一つは、愚庵研究の大家中柴光泰先生が列席したことである。先生は九十歳を越える高齢にもかかわらず、宴会の大広間のすみずみまで通るお元氣な声で、次郎長と愚庵の関わりを話された。愚庵の「巡礼日記」は明治二十六年に書かれたものだが、それは正に、次郎長の亡くなった年であり、親とした次郎長の供養のために巡礼の旅に出たのだと、中柴先生は指摘した。

次郎長ツアーは、今年秋には、いわきからの一行を待ち受けることになる。おそらく、初めて清水にできる愚庵の歌碑の除幕式が、開かれることになろう。



▲天田利正氏(左)と服部令一

次郎長フェア11月開催へ

明治二十六年（一八九三年）六月十二日清水港波止場の旅館「末広」で、山本長五郎は七十四歳の波乱に満ちた生涯を閉じた。平成五年（一九九三年）はちょうど満百年に当たると。これに因んで、本年十一月には「次郎長シンポジウム」や次郎長英雄談の始祖天田五郎の歌碑の除幕式など「次郎長フェア」が催されることになる。また、命日の六月十二日は、知会の年次総会が開かれ、事業計画などの審議が進められいよいよ次郎長百年のイベントの幕が切って落とされる。

いの一年の歩み

昨年五月六日に旗上げた「次郎長翁を知る会」は、この一年「次郎長の人間像を探る」「足跡を後世に語り継ぐ」という趣意に沿って積極的な活動を展開してきた。

会の発足は、静岡新聞はじめ、朝毎読の各紙やNHK、静岡テレビなどが、大々的に報じたため観光協会内の事務局には、さまざまな反響が寄せられた。

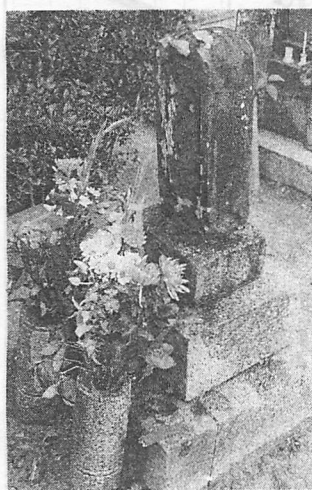
各方面から、いままで埋れていた資料や言い伝えの所在を名乗り出る声が相次いで寄せられた。

静岡市在住の徳田政信氏は中京大学名誉教授だが、次郎長に関する文書類を所蔵しており、門外不出のものだがというご連絡が同氏からあった。

平成四年五月二十一日、事務局長服部に田口が同行し、静岡市の徳田氏宅を訪ねた。同氏のお話では、同氏の曾祖父徳田寛豊（水戸藩郷土）が明治初期に神道一派天照教を開き、その本部を富士山麓においたが、次郎長との関係を示す資料がいろいろあり、次郎長が開墾地を富士裾野に選定し

したのも天照教の地理的至近性と何らかの関わりがあらうという。天照教の本部は、徳田氏の令弟が現に継承してその地に居られるともいわれた。

七月四日、天照教本部を現地探訪するため、観光協会一柳専務、内藤事務局長、知る会事務局長服部、および田口が富士市観光課の案内で富士山麓を車で登った。この探訪によって、次郎長の富士山開墾と天照教本部の立地と少なからぬ関係が明らかになったことは、会報一号記事に詳しい。人里離れた天照教本部の境内に、次郎長や高島嘉右エ門（横浜の豪商）の手植の桜が残されていることも、われわれの驚きであった。



▲平和公園墓地の初代お蝶の墓

六月十二日は次郎長の命日である。平成四年のこの日は、菩提寺の梅蔭寺で、百回忌の法要が盛大にとり行われた。知る会の会員も多数参列し玉川楼での齋会にも加わった。さらに翌十三日、梅蔭寺主催、知る会協賛による「次郎長講談と映画の会」が、市民文化会館大ホールで催された。講談は神田翠月「森の石松」と宝井馬琴「追分三五郎」。映画は昭和二十九年東宝製作の「次郎長三国志・海道一の暴れん坊」。アトラクションとして稲森昌弘の「次郎長太鼓」。当日は午後一時開演だが午前八時頃から行列がで始め、開演の頃には広い場内が一杯になり、馬琴師匠らの熱演に聞きほれた。

平成四年七月二十五日、咸臨丸歓迎パーティ。長崎オランダ村で復元した咸臨丸が清水港に寄港、乗組員一同歓迎パーティが市内平安閣で催され、市長、艦長のスピーチ交換、次郎長翁を知る会と乗組員との懇親の一時が過ごされた。明治元年の咸臨丸事件と次郎長の関わりは、次郎長の後半生を決定づける大きな出来事だったことは、改めていうまでもない。

一方、次郎長の史実についての調査研究活動は服部事務局長や会員の朝比奈、坂本、田口らを中心に精力的に進められた。戸田書店発行の「季刊清水」の編集長坂本ひさ江は、次号を次郎長特集とすることに決定したが、新しい史実を掘り出そうというその編集方針が、知る会の調査研究活動を大いに刺激した。

調査研究活動のうち主なものを以下に列記する。
平成四年九月九日、磐田市見付天神訪問（服部）

ここには植木重敏医師宛の次郎長直筆の書状がある。植木医師は明治草分期の県医師会会長で、出身は土佐藩、次郎長との関わりが深い。

平成四年十一月十九日、袖師町勝瀬光安氏を訪問（服部、坂本、田口）。文化財専門委員をつとめる勝瀬氏は八十歳を越える高齢だが、次郎長に関する独自の資料をお持ちで、門外不出といわれるそのノートには、次郎長に関する貴重な史実がい

残された鉄舟のピストル・望嶽亭の幕末秘話

平成五年一月九日「次郎長翁を知る会」のメンバー一行（服部、坂本、田口）が由比町西倉沢の松永宝蔵氏宅を訪ねた。ここには明治維新の年、官軍陣営に密使として乗り込んだ山岡鉄舟のピストルが残されている。当主松永宝蔵氏の描いた絵巻物を見せていただいたが、こんなことが記され



▲望嶽亭主人 松永宝蔵氏と夫人
鉄舟のピストルを前に語る

つばいである。次郎長の戸籍の記載、初代お蝶の実名、宏田和尚（次郎長と同時期の梅蔭寺住職）の出身等が明らかになった。

平成五年一月八日、名古屋市平和公園墓地内の初代お蝶の墓を探訪、墓参（服部、内藤、朝比奈、坂本）。

平成五年一月九日、由比町松永宝蔵氏訪問（服部、坂本、田口）。別記参照。

ていた。

慶応四年春三月、有栖川宮大総督は西郷隆盛を矢頭に錦の御旗を掲げて、東海道を江戸に向かって進み、駿府に陣営を構えていた。江戸城総攻撃も間近い緊迫した時期である。

こんな時、江戸では主戦派、恭順派に分かれていたが、勝海舟の特命を受けた山岡鉄舟は、將軍慶喜の救命を前提とする江戸城明け渡しの際の談判を西郷とするため、駿府に向かった。すでに官軍の先鋒は箱根を越え、宿場／＼の警備は厳重である。薩摩藩士益満休之助を帯同したのは、官軍陣営に突破する手段だったが、それでも決死の覚悟なしにはできない任務であった。

途中難なく、三島、沼津、吉原を過ぎ富士川を渡って蒲原、由比に差しかけた時は、日が暮れていた。薩埵峠を登ったとき、突然暗闇の中で誰何の声がかかった。一人では突破できないと見て山岡は急ぎ引き返したが、官軍は怪しいと見て射撃してきた。

薩埵峠の登り口に松永家が代々営む「望嶽亭、ふじみや」がある。ここは蜀山人太田南畝も道中に書留めた東海道の名所である。身の危険を感じた山岡鉄舟はこの「望嶽亭」に逃げ込み、助けを求めた。

当主の「松永七郎平」（松永家二十代目）は火急の措置を取って奥の座敷に入れ、妻かくに命じて山岡を漁師の姿に変装させ、着用していたものを捕方の目にふれないように、手早く隠した。この持ち物の中に現在松永家に残っている山岡鉄舟のピストル（フランス製の十連発小銃）があつて大切に保存されている。

この時、七郎平は清水次郎長宛に手紙を書き、下僕の「栄兵衛」に命じて蔵座敷から秘密の通路を通って海に出て次郎長の許へ案内した。この抜け口は、今も当時のまま保存されている。

次郎長は、これから山岡鉄舟を駿府伝馬町「松崎屋源兵衛」宅に案内し、有名な江戸城無血開城を成功させる山岡鉄舟の談判となり、日本の夜明けを迎える大きな契機となったのである。

（服部）

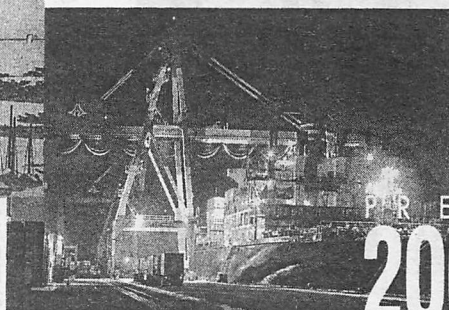


SINCE
1801



前史は物語る

次世紀をグランドデザインする



PRESS
2001



鈴与株式会社

〒424 静岡県清水市入船町11-1 ☎(0543)54-3040

なるほど
あつさり、
使いやすい。

Hagoromo はごろもフーズ

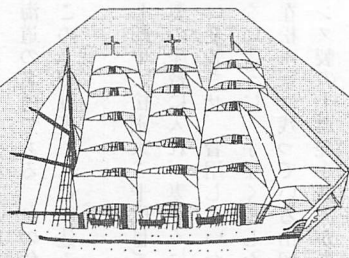


油あつさりシーチキンL/80g



※シーチキンは、はごろもフーズ㈱の登録商標です。

次郎長の後半生は
地域の発展に捧げられ
ました。
清水銀行も地域の
経済・文化・スポーツの
発展をお手伝いして
まいります。



羽衣伝説の地に
清水市内22番目の
三保支店が
オープンいたしました。
よろしくお引立ての
程お願いします。



清水銀行